

ササン朝。ペルシヤのゾロアスター教

隊商路に灯る火ササン朝と拝火神殿

紀元3世紀から7世紀にかけてオリエント世界を支配したササン朝ペルシヤ。アケメネス朝の栄華の復興を願ったこの王朝は、アケメネス朝より長い425年もの間大国として君臨しました。今回のシルクロード英雄列伝では、ローマ帝国の皇帝を捕虜にした程強大だったこの国と、ゾロアスター教との係りをご紹介します。

ササン朝の諸王

ササン朝の初代の王は、アルダシール1世。彼は、現在のシラーズ近郊にあるエスタフルにいたゾロアスター教の神官の一族出身と言われています。ザラスシュトラを開祖とする世界最古の一神教であるゾロアスター教は、西アジアの様々な帝国、王朝内で信奉されてきましたが、ササン朝はこの宗教を国教に定めます。そして、マニ教やネストリウス派のキリスト教等の他の宗教を弾圧し、ゾロアスター教のもと国の基盤を固めていきました。

ローマ帝国に勝利し、ローマ皇帝ヴァレリアヌスを捕虜にしました。命乞いをするヴァレリアヌスがシャープール1世に跪く姿が、ナクシエロスタムのレリーフに残っています。

隊商と拝火神殿

ササン朝の安定した政権の下、交易が盛んになり、シルクロードを結ぶ交易路や海洋ルートが発展していきました。ササン朝時代に作

られたカットグラスや、ササン朝の影響を受けたデザインのものなど、多くのものが日本にも渡ってきています。当時王朝の領土内を行き来した隊商もゾロアスター教を信奉し、各地の拝火神殿で旅の安全を願いました。そのためキャラバンルート上に建設された拝火神殿は、隊商達の献金により経済的に潤っていました。また、ゾロアスター教はシルクロードを行き交った商人により中国まで伝えられました。

シラーフからフィルザバードへの隊商路

海のシルクロードの玄関口として栄えたペルシヤ湾岸の港シラーフから内陸に続く隊商路沿いには、現在もかつての神殿跡が残っ

ています。ササン朝のペルシヤ州の州都であったフィルザバード近郊のコナル・スイヤーフには、複合拝火神殿が残っています。この複合拝火神殿は、聖なる火を灯して礼拝した拝火神殿、聖なる火の種火を守るための建物であるアテシュギヤール、そして神官達の住居の3つの建築群から成り立っています。そして州都であったフィルザバードには、初代の王アルダシールが建てた巨大な宮殿が残っています。しかし、紀元976年の大地震によりシラーフの港が壊滅した後この隊商路はすたれ、行き交う隊商達からの財源が無くなった神殿は、打ち捨てられていきました。

ササン朝の滅亡とイスラム化

7世紀、アラビアからのイスラム勢力の到来により、ササン朝は滅亡します。そして多くのゾロアスター教徒はイスラム教へと改宗もしくは逃亡し、ササン朝領土だった地はイスラム世界へと変わっていきました。

イランの各地には、打ち捨てられた拝火神殿が数多く残っています。かつては聖なる火が灯り、キャラバンルートを照らしたであろうこれらの神殿群は、今は時が止まったかのようにかつての隊商路に佇んでいます。

関連ツアーのご紹介

イラン東部を北から南に縦断し、各地に残る史跡を訪ねる
クーヘ・ハージェから南ペルシヤへ

<主な訪問地>

- ・バルティアとサカの時代の巨大な宮殿が残るクーヘ・ハージェ
- ・紀元前3200年期の遺構が残るシャフレ・ソフタ
- ・アルゲ・バムの要塞
- ・ホルムズ島のポルトガル要塞
- ・かつての海のシルクロードの港だったシラーフ
- ・コナル・スイヤーフの複合拝火神殿
- ・フィルザバードのシャープールの宮殿



右/シャープール1世の肖像が刻まれたコイン(アゼルバイジャン博物館蔵) 中/フィルザバードのシャープール一世の宮殿 左/コナル・スイヤーフの拝火神殿(右)とアテシュギヤール(左)



右/ナクシエ・ラジャブのアルダシール1世の戴冠式のレリーフ 左/ナクシエ・ロスタムのシャープール1世とヴァレリアヌスのレリーフ